

令和5年度弘前商工会議所経営発達支援計画事業評価委員会議事録

1. 日 時 令和6年2月26日（月）午前11時から午後0時20分まで

2. 場 所 弘前商工会議所会館6階特別会議室

3. 出席者 【委員】

土岐 俊二 弘前商工会議所 専務理事
 福土 智広 弘前市商工部商工労政課 課長
 太田 尚亨 弘前市商工部産業育成課 課長
 古谷 洋樹 日本政策金融公庫弘前支店 支店長
 黒沢 景俊 青森県信用保証協会弘前支所 支所長
 古川 博志 青森県中小企業団体中央会弘前支所 所長
 栗村 圭一 K-Oneコンサルティング 代表
 山田 貴弘 山田貴弘中小企業診断士事務所 代表

【事務局】

木下 克也 弘前商工会議所中小企業相談所 所長
 齊藤 耕成 " " 経営二課 課長
 三上 浩平 " " 経営二課 課長補佐

4. 事業評価

事務局より事業実施状況報告後、委員8名より評価をいただいた。下記の表は、該当する評価を何人行ったかの人数を記載している。

事業項目	評価			
	A	B	C	D
1. 地域の経済動向調査に関する事		3	5	
2. 経営状況の分析に関する事	6	2		
3. 事業計画策定支援に関する事	8			
4. 事業計画策定後の実施支援に関する事	4	4		
5. 需要動向調査に関する事		4	4	
6. 新たな需要の開拓に寄与する事業	7	1		
7. 他の支援機関との連携を通じた支援	8			
8. ノウハウ等の情報交換	4	3	1	

評価基準は、以下のとおり。

A：十分達成 B：概ね達成 C：どちらかという達成していない D：未達成

5. 内 容

午前11時定刻開会。

令和5年度事業報告について事務局より資料に基づき令和5年度の実施事業について説明。日々の支援業務、展示会出展事業の成果について報告。各委員の主な意見や助言は次のとおり。

1. 地域の経済動向調査に関すること			
①管内の景況動向調査 ②地域診断サービスによる調査			
【評 価】			
A	B	C	D
	3	5	
【意見・コメント】			
<ul style="list-style-type: none"> ・目標に比較しての実施率（50％）は少ないものの融資や事業相談への対応から各業界の動向把握と合わせ、事業計画策定などでの基礎資料となっている。 ・コロナ禍が長期化している事を勘案すれば、回数が少なくともやむなしと考える。 ・次年度計画通り実施し企業へのフィードバックを期待。 ・弘前市内の詳細な景気動向把握のため利用させていただきたい。 ・情報収集を行うのは、大変な作業だとは思いますが、実態を把握するには、四半期ごとの調査は必要かと思う。 ・管内の景況動向について、調査方法の工夫や内容等取捨選択しながら調査回数を増やせると良い。 ・コロナ禍から回復途上で計画値を下回っているが、今後適切に実施されることを期待する。 			

2. 経営状況の分析に関すること			
①経営分析セミナーの開催 ②窓口・巡回相談と補助金活用及び金融支援時の経営分析			
【評 価】			
A	B	C	D
6	2		
【意見・コメント】			
<ul style="list-style-type: none"> ・補助事業相談や融資相談の際に経営状況を確認しており目標の3倍超の経営状況の分析ができている。 ・目標値以上に実施できている。 ・次計画においても高い達成率を期待。 ・実施回数、参加人数、件数も十分であり、テーマ及び事業者のニーズに合致している。 ・セミナー参加人数は目標を下回っているものの、セミナーの回数や経営分析件数は十分目標を達成できている。 ・分析を受けた事業者が自身でも継続して分析できるような取り組みになればより良い。 			

3. 事業計画策定支援に関すること			
①専門家による事業計画策定支援 ②窓口・巡回相談と補助金活用及び金融支援時の事業計画策定 ③創業計画・事業承継計画策定			
【評 価】			
A	B	C	D
8			
【意見・コメント】			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門家を活用したブランデュー弘前の事業計画策定のほか、持続化補助金や事業再構築補助金など補助金活用の事業計画策定を会議所職員が伴走しながら実施している。 ・ 次計画においても DX、IOT のみならず高い達成率を期待する。 ・ 関係機関との連携により対応しており件数なども十分である。 ・ 各支援機関と連携しながら丁寧な支援がなされている。 ・ いずれも目標を達成しており、しっかり支援ができています。事業計画策定に関しては、目標設定をもう少し上げて良い。 ・ 専門家を複数回派遣した具体的な支援は今後も取り組んでもらいたい。 			

4. 事業計画策定後の実施支援に関すること			
①事業計画策定支援後のフォローアップ ②創業計画・事業承継計画策定後のフォローアップ			
【評 価】			
A	B	C	D
4	4		
【意見・コメント】			
<ul style="list-style-type: none"> ・ フォローアップの延べ回数のみ目標を下回っているものの、計画外企業かも知れないが、支援機関へ紹介や同行などで数字に表れないフォローアップが確認できる。 ・ 支援機関と連携し次の計画においても高い達成率を期待する。 ・ 適切に対応していると思われるが、フォローアップ延べ回数の増加が図られれば更に良い。 ・ 創業者・事業後継者のフォローアップの延べ回数は目標を下回っているものの、専門家とともにしっかり支援ができています。 ・ 創業者・事業後継者のフォローアップの延べ件数は目標からかなり差があるが、もともと目標値が高すぎるのではないかと。 			

5. 需要動向調査に関すること			
①伝統工芸品消費者ニーズヒアリング調査 ②加工食品消費者ニーズヒアリング調査 ③国際見本市における定量調査と定性調査			
【評 価】			
A	B	C	D
	4	4	
【意見・コメント】			
<ul style="list-style-type: none"> ・目標に対して実施率（25％）は少ないが、当該需要動向調査で伴走支援した企業は、会議所のメディア活用支援もあり売上が向上している。 ・コロナ禍でイベント開催も限定的なため6年度以降に本格的に再開することで良いと考える。 ・継続的な調査を期待する。 ・出展者の増加に向けた取組みが課題であるため関係機関の連携がより一層重要である。 ・令和5年度は1件との事だが、もっと多くの商品について調査できたら「津軽の食と産業まつり」の新たな価値が生まれてくるのではと感じた。 ・支援件数も大事であるが、支援による効果も評価したい。 ・今年度は1件だけだったが、コロナ禍からの回復状況を把握するためにも今後支援件数を増やしてもらいたい。支援内容からは目的はおおむね達成とする。 			

6. 新たな需要の開拓に寄与する事業			
①共同展示会商談会出展			
【評 価】			
A	B	C	D
7	1		
【意見・コメント】			
<ul style="list-style-type: none"> ・展示会での商談は、終了後のメールのやりとりが中心で、成約するまで数カ月かかるのが常であるため、成約件数は今後出てくると考えられる。パブリシティを活用した支援も行っているため相乗効果に期待。 ・成約につながるフォローアップを今後期待する。 ・出展事業者も増加しており、成約に向けた支援が必要になる。 ・成約件数の結果はこれからであることから目標を達成することができている。今後は他の事業者も参加していただきたいと感じた。 ・成約件数の実績にはなっていないが、支援を受けた事業者の評価としては、今後につながる前向きなものと捉えている。 ・直近の展示会への出展であるため成約まで無かったが、今後は期待できる 			

7. 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換			
①事業評価委員会 ②情報交換会 ③小規模事業経営改善資金推薦団体連絡協議会			
【評価】			
A	B	C	D
8			
【意見・コメント】			
<ul style="list-style-type: none"> ・行政、金融機関、ひろさきビジネス支援センターとの連携が十分に図られており、それら連携体で支援した創業事例やアフターフォロー事例では、支援先企業の売上利益に結果が表れている。 ・相互理解が深まったと認識している。 ・継続的に実施いただきたい。 ・定期的に情報交換等の会議が実施されており、適切に実施されている。 ・今後も様々な場面で情報交換させていただきたい。 ・引き続き、支援に向けた情報交換をお願いしたい。 ・連携先が近隣会議所と日本公庫に偏っており、今後は商工会等とも情報交換する機会を設けてはどうか 			

8. 経営指導員等職員の資質向上に関すること			
①第10回商工会議所経営指導員全国研修会（特定商工会議所中小企業相談所直面問題会議） ②商圏レポートMieNa（ミーナ）所内勉強会 ③商圏レポートMieNa（ミーナ）ご活用セミナー			
【評価】			
A	B	C	D
4	3	1	
【意見・コメント】			
<ul style="list-style-type: none"> ・経営発達支援計画により、以前に比べ個社支援を意識する会議所職員は増加したが、まだ「踏み込む職員」の増加には至っていない。それを広げ、支援ノウハウを承継することが今後の課題。 ・研修等の本格的な再開は6年度以降で良い。 ・継続的に実施いただきたい。 ・商工会議所の全国のネットワークや各種ツールの活用等により適切に行われている。 ・常日頃努力されている事と感じる。 ・経営指導員の全体的な資質向上には乏しいように感じる。 			

【福士委員（弘前市商工労政課）】

事業評価をするにあたって、定性的な部分の評価がもっと必要だと思う。定量的な部分だけに注目するとどうしても評価が低くなってしまう場合がある。伴走支援は特に件数を稼ぐ支援ではないので今後の事業評価の参考として欲しい。

【太田委員（弘前市産業育成課）】

伴走支援を続け、売上が増加している事業所も増えているため今後も引き続きの伴走支援をお願いしたい。

【古屋委員（日本政策金融公庫）】

踏み込んだ伴走支援をしていると理解はしているが、PR が足りないように感じる。PR を進めることで支援先の掘り起こしにつながるのではないかと思う。

【黒沢委員（青森県信用保証協会）】

経済動向調査は非常に有益な情報であるため注視している。管内の景況状況の把握が出来れば保証協会としても業界ごとに適した支援ができる。

【古川委員（団体中央会）】

会議所の支援が無いとここまでの実績はないと感じている。補助金の活用方法に関して事業者側も分かかってきており、更に支援の必要な事業者が増えると予想されるため連携支援をしていきたい。

また、UターンやIターンの事業者が駅前に増えてきているものの、なかなか繋がりがなく今後の駅前地区の活性化のためにも何かできないかと感じている。会議所で支援している事業者がいるため今後の連携支援をお願いしたい。

【栗村委員（中小企業診断士）】

どうしても会議所と関りの深い事業者の支援が多く感じている。今後は広くどうやって支援先を広げていくかが課題ではないかと感じている。

また、補助金セミナーに偏っているため経営分析のセミナーの開催もしてほしい。

【山田委員（中小企業診断士）】

会議所と共通の支援先も多くなってきているため、情報共有をしながらの支援が出来ればと思っている。

また、展示会に出展したいという事業もあるため、会議所の支援内容をオープンに出来るところはオープンにしてほしいと思っている。

その他、当所の経営発達支援計画が令和6年3月31日で計画満了となるため、令和5年度中に新たな計画の策定をし、国に申請した旨を報告。結果については3月中発表。

以上